

## 第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

第3項 国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、松戸の歴史や文化・  
伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

めざしたい将来像:

平和を大切に、松戸を愛する人を増やすため、日本人も外国人も皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”を実現します。

指標

史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度

### (1) 指標の説明

松戸の歴史、文化身近に感じ、満足している人の割合を把握するため、史跡や神社、仏閣など歴史など・伝統文化遺産の満足度を指標にします。

### (2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

Q18-ス あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のA～チの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ス 史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産	1	2	3	4	5	6

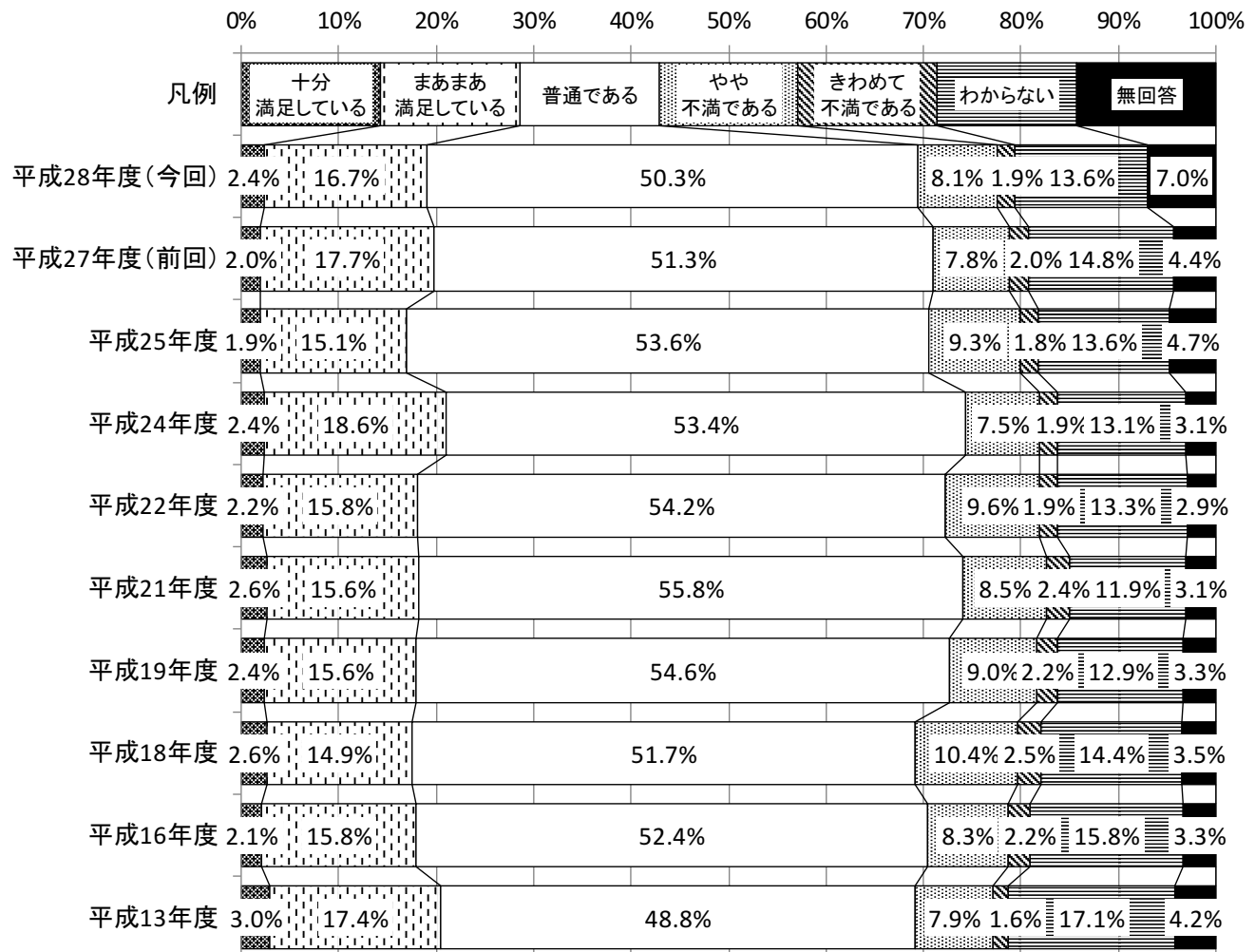
### (3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成25年度	平成27年度	平成28年度
十分満足している	3.0%	2.1%	2.6%	2.4%	2.6%	2.2%	2.4%	1.9%	2.0%	2.4%
まあまあ満足している	17.4%	15.8%	14.9%	15.6%	15.6%	15.8%	18.6%	15.1%	17.7%	16.7%
計	20.4%	17.9%	17.5%	18.0%	18.2%	18.0%	21.0%	17.0%	19.7%	19.1%

#### (4) 指標の分析

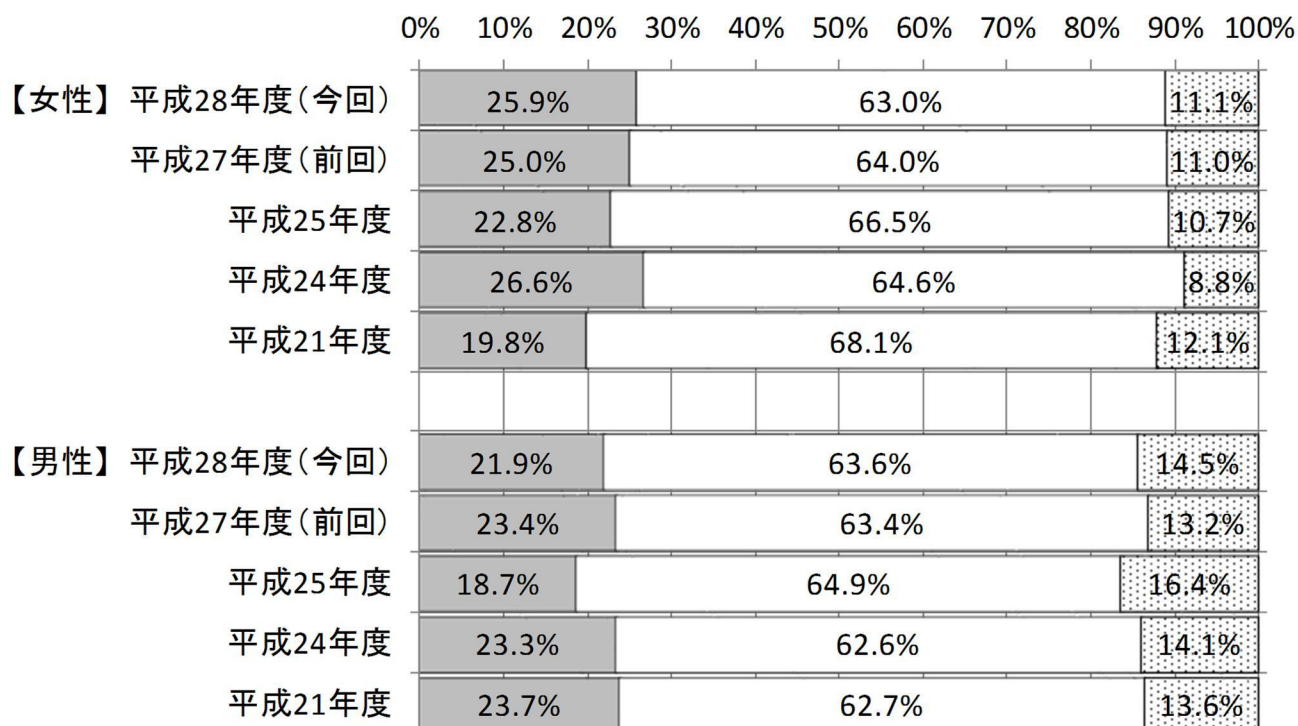
##### ☆史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度は約2割

史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産に“満足している”という人は19.1%であり、前回調査に比べ0.6ポイント減少しています。



性別で見ると、満足している人の割合は、“男性”が21.9%であり、前回調査より1.5ポイント低下しています。一方、“女性”は25.9%であり、0.9ポイント増加しています。

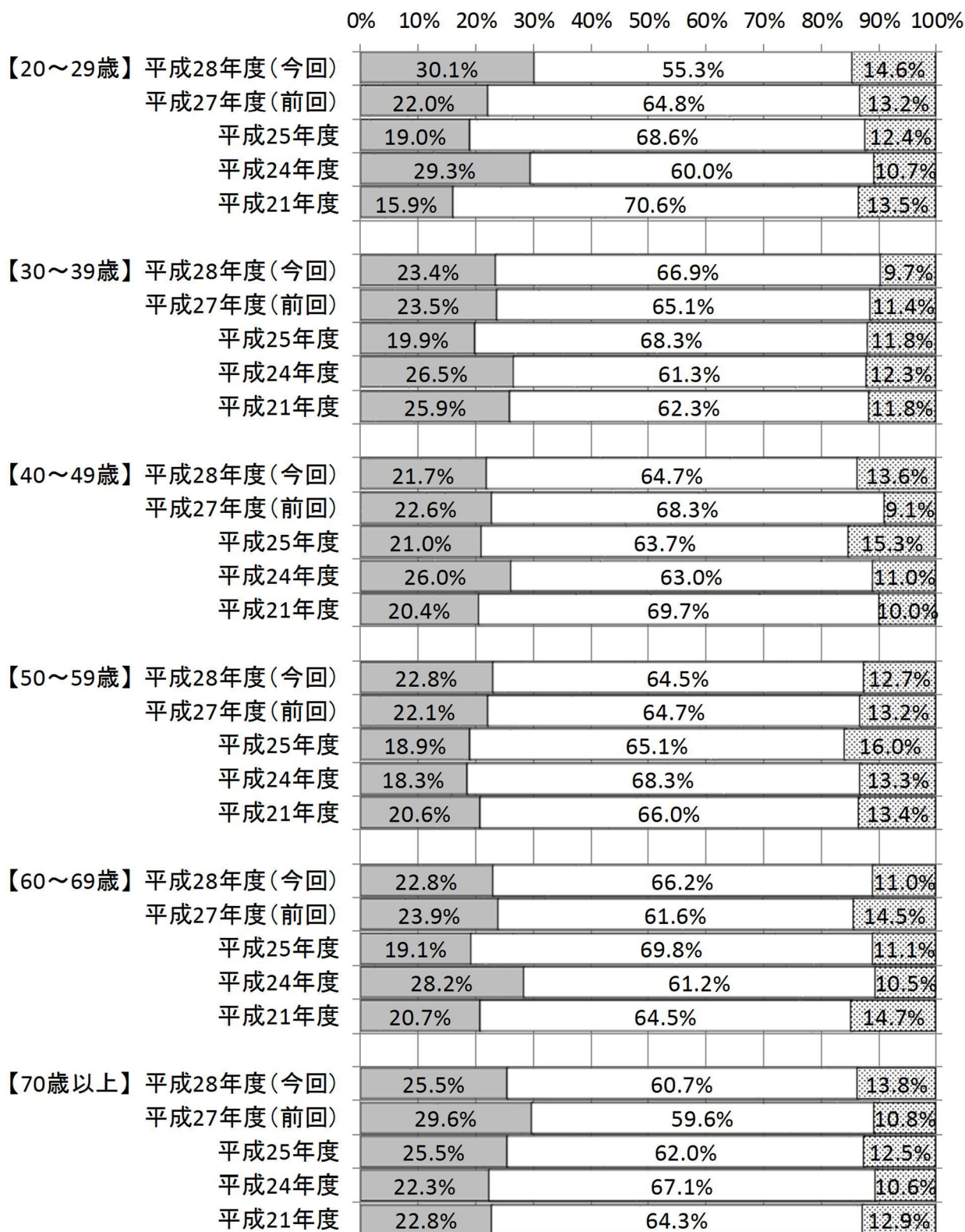
【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×性別】



- “十分満足している”と“まあまあ満足している”の合計比率
- “普通である”の比率
- ▨ “やや不満である”と“きわめて不満である”の合計比率

年齢別にみると、“20～29歳”が30.1%と最も高く、前回調査より8.1ポイント増加しています。一方、“70歳以上”は25.5%ですが、前回調査より4.1ポイント減少しています。

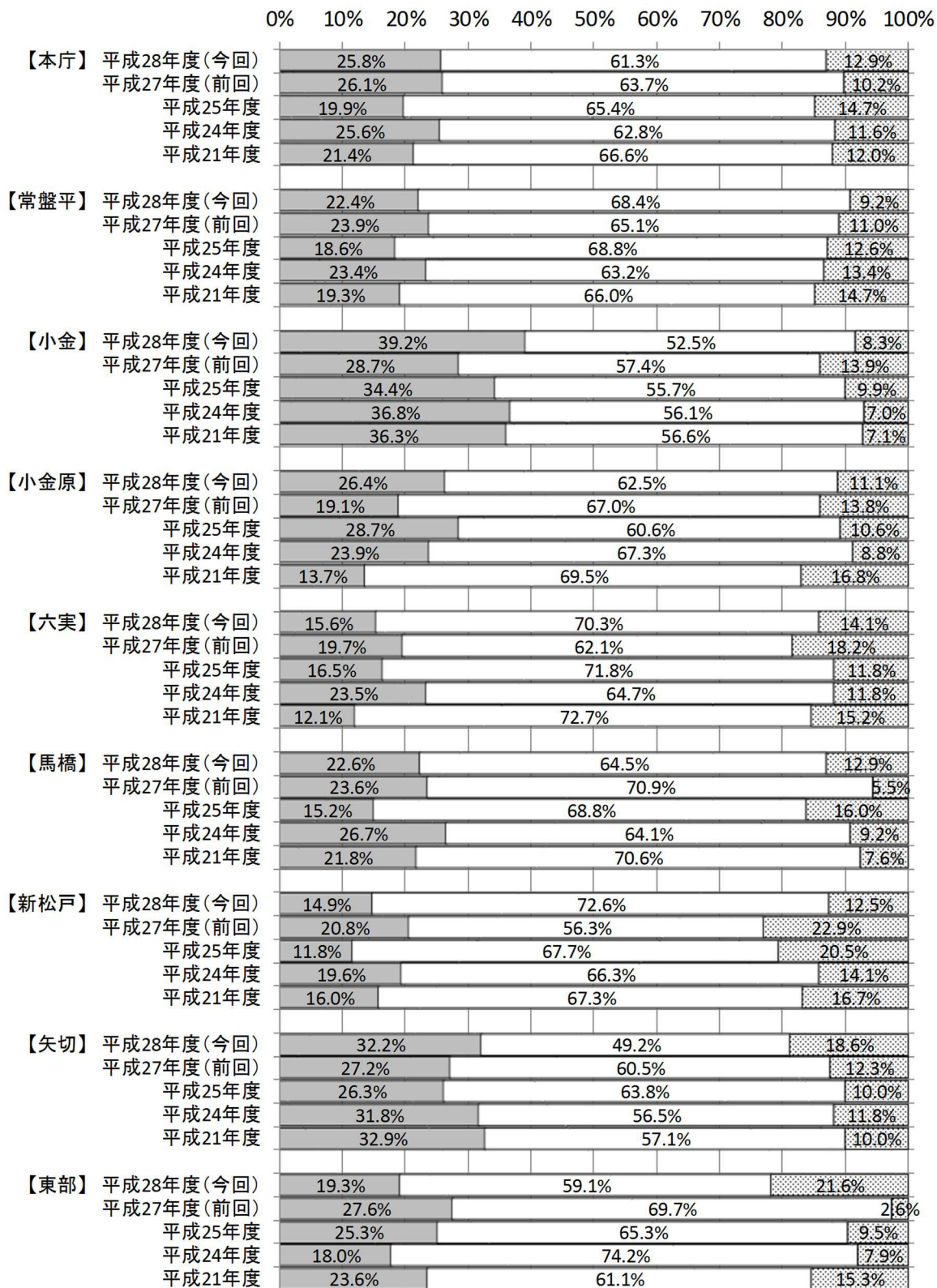
【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×年齢】



- “十分満足している”と“まあまあ満足している”の合計比率
- “普通である”の比率
- ▨ “やや不満である”と“きわめて不満である”の合計比率

地区別にみると、前回調査に比べ、“小金地区”、“小金原地区”、“矢切地区”で満足している人の割合が増加しています。とりわけ、“小金地区”は 39.2%であり、前回調査より、10.5 ポイント増加しています。

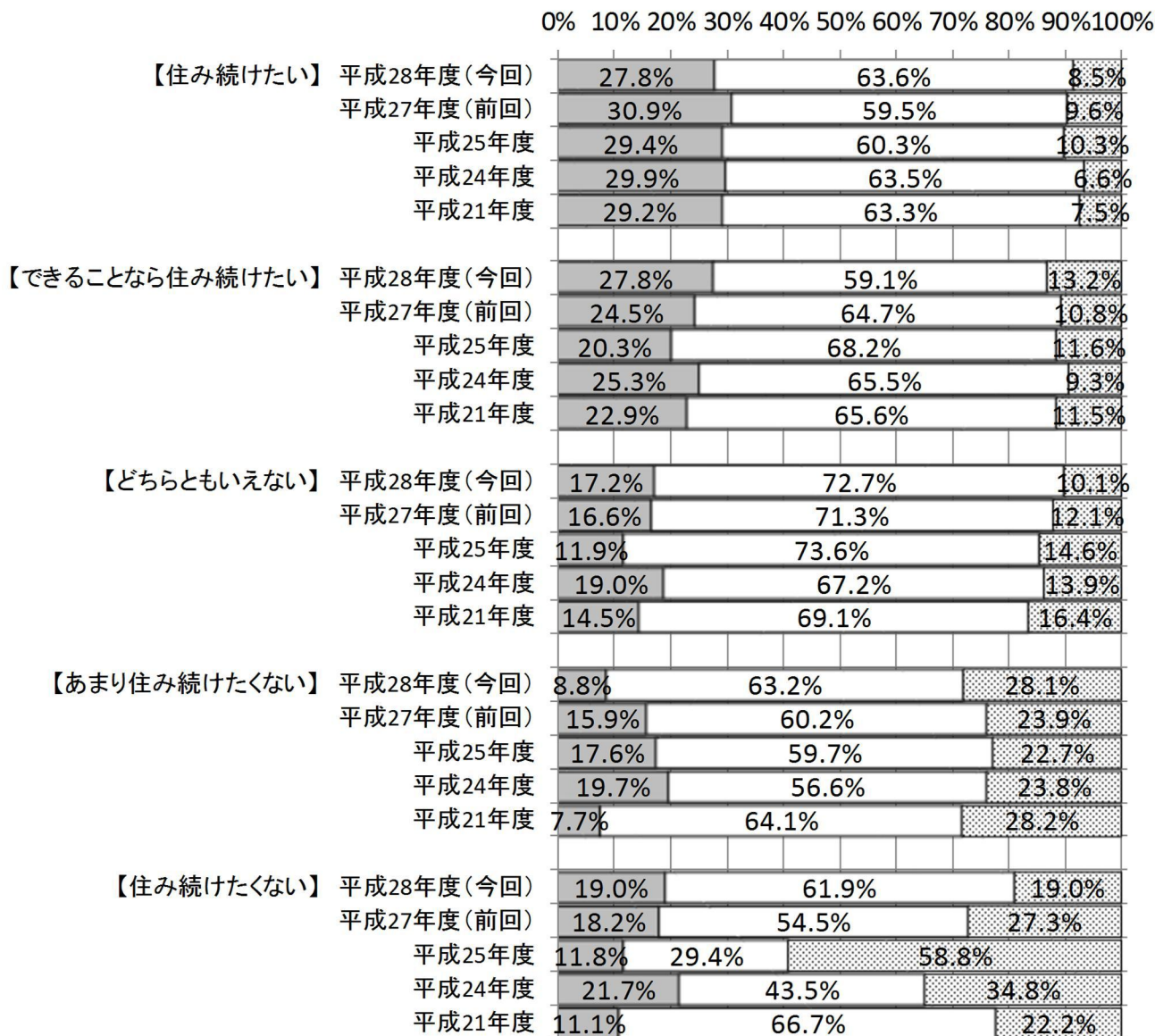
【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×地区】



- “十分満足している”と“まあまあ満足している”の合計比率
- “普通である”の比率
- ▨ “やや不満である”と“きわめて不満である”の合計比率

定住意向別にみると、定住意向の高い人の方が低い人より満足している割合が高い傾向がみられます。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×定住意向】



- “十分満足している”と“まあまあ満足している”の合計比率
- “普通である”の比率
- ▨ “やや不満である”と“きわめて不満である”の合計比率

## 指標

文化・芸術に親しむ市民の割合

### (1) 指標の説明

市民が親しんだり活動したりしている文化や芸術には様々なものがありますが、市民の自主的活動や自ら創造的な活動をする市民が増えていくことをめざします。そこで文化・芸術に親しむ市民の割合を指標とします。

### (2) 設問

この指標は、次の設問により創作や実践と鑑賞を区分して直接的に聞いています。「個人・行動」

Q13 あなたは日頃、絵画、音楽、映像、演劇などの芸術文化を鑑賞したり、創作や実践することがありますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| 1 鑑賞し、自分でも創作や実践もしている    | 3 時々鑑賞している  |
| 2 よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない | 4 たまに鑑賞している |
|                         | 5 ほとんど鑑賞しない |

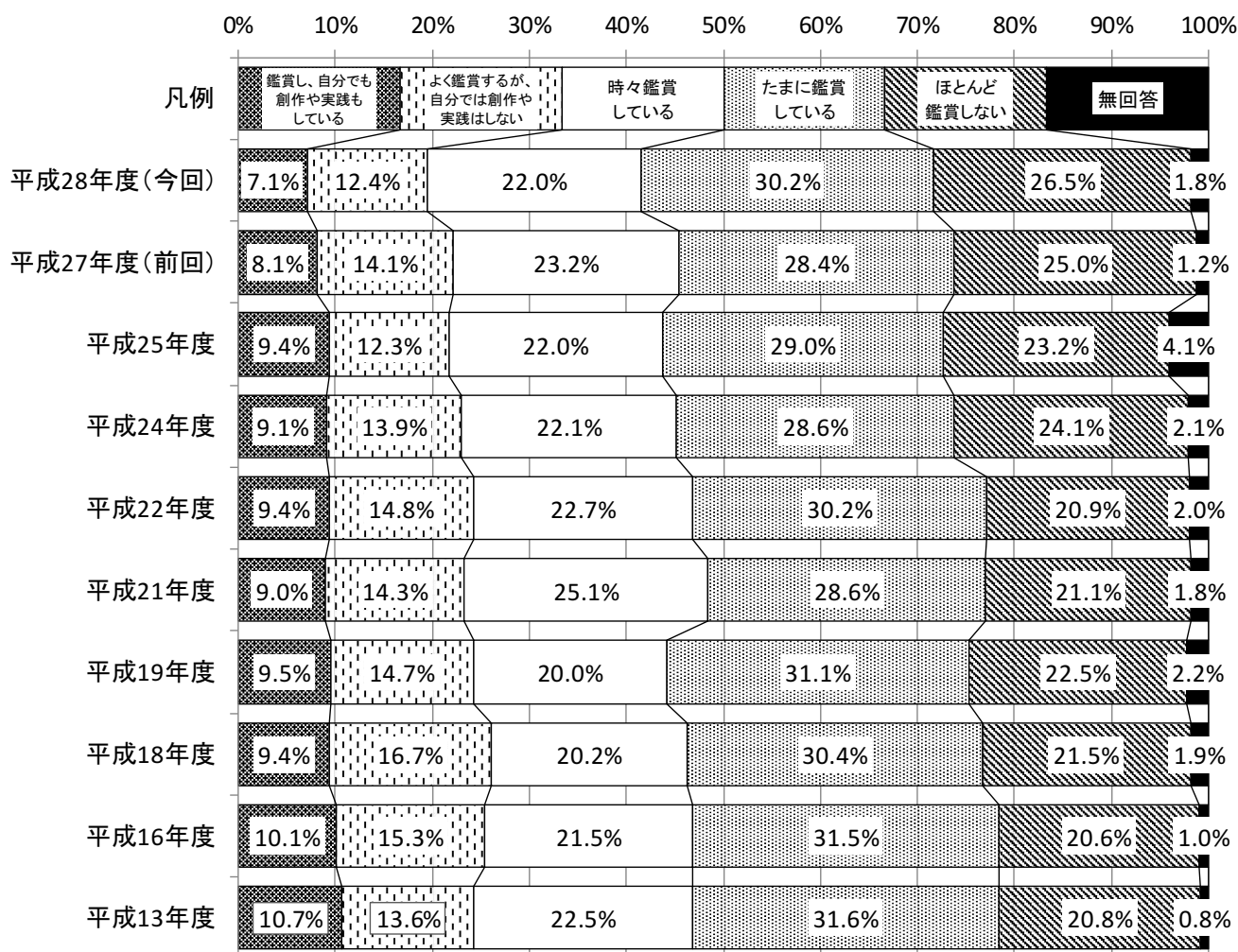
### (3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
鑑賞し、自分でも創作や実践もしている	10.7%	10.1%	9.4%	9.5%	9.0%	9.4%	9.1%	9.4%	8.1%	7.1%
よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない	13.6%	15.3%	16.7%	14.7%	14.3%	14.8%	13.9%	12.3%	14.1%	12.4%
時々鑑賞している	22.5%	21.5%	20.2%	20.0%	25.1%	22.7%	22.1%	22.0%	23.2%	22.0%
計	46.8%	46.9%	46.2%	44.2%	48.4%	47.0%	45.1%	43.7%	45.4%	41.5%

#### (4) 指標の分析

☆日頃、芸術・文化に親しむ人の割合は4割台でほぼ一定。

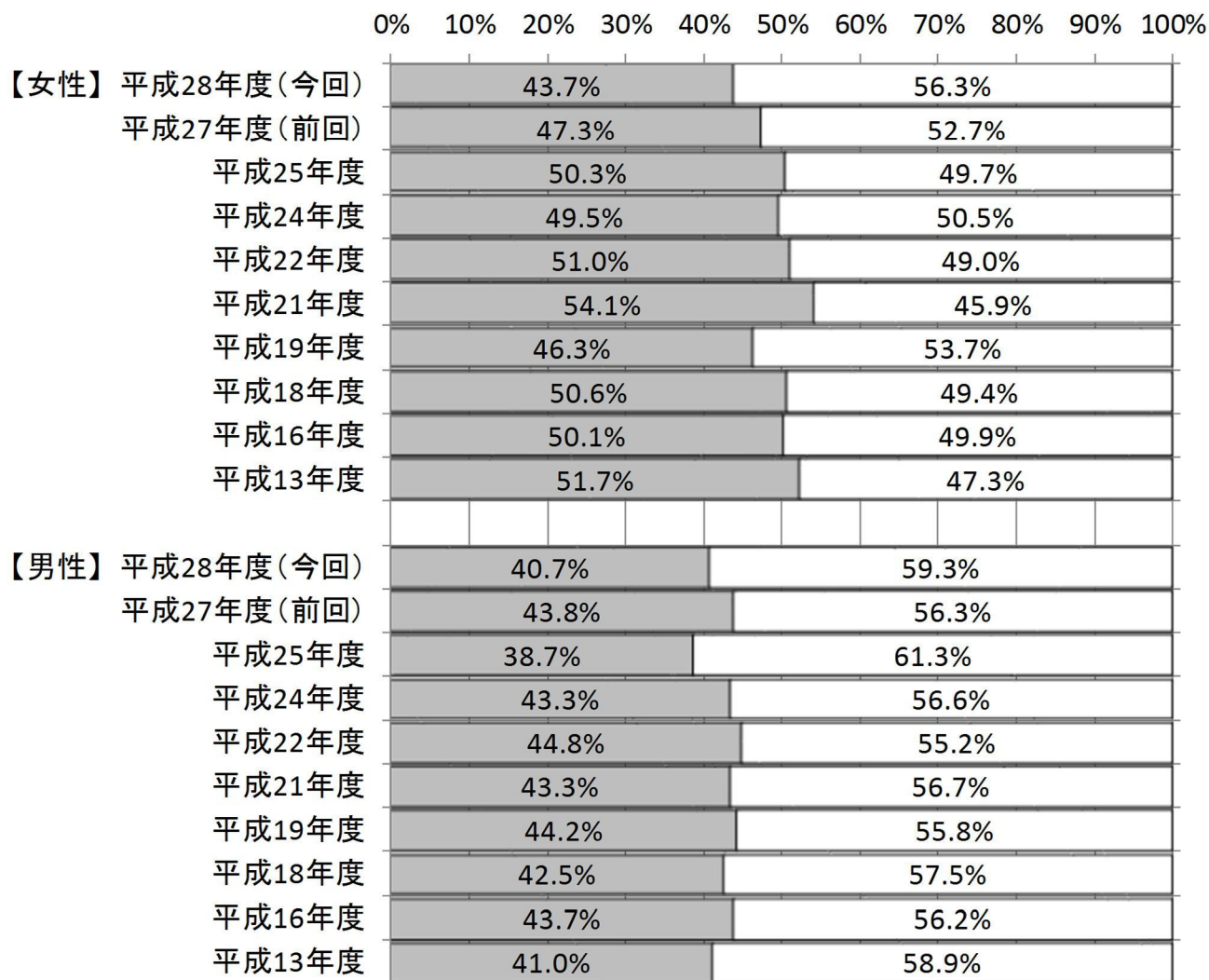
日頃、芸術・文化に親しむ人の割合は、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”(7.1%)、“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”(12.4%)、“時々鑑賞している”(22.0%)を合わせた割合は41.5%であり、前回調査より3.9ポイント減少しています。





性別にみると、“鑑賞している”人の割合は“女性”43.7%、“男性”40.7%であり、前回調査と同様に“男性”よりも“女性”の方が高くなっています。

【文化・芸術活動×性別】

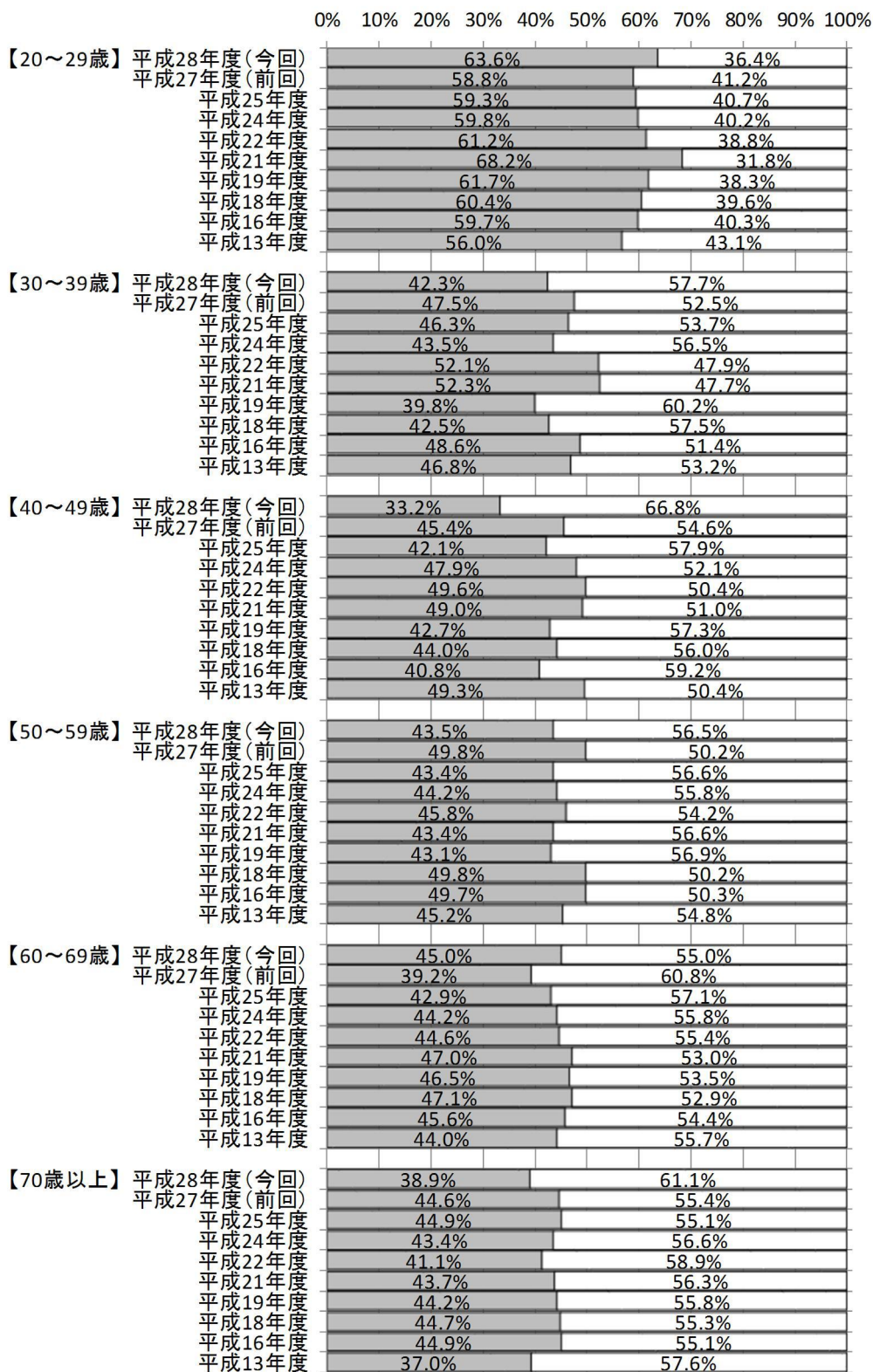


■ “鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”と“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”、“時々鑑賞している”の合計比率

□ “たまに鑑賞している”と“ほとんど鑑賞しない”の合計比率

年齢別にみると、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”と“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”、“時々鑑賞している”を合わせた文化・芸術活動に積極的な人は、“20～29歳”が63.6%であり、前回調査より4.8ポイント増加しています。また、“60～69歳”も45.0%であり、前回調査と比べて5.8ポイント増加しています。

【文化・芸術活動×年齢】



- “鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”と“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”、“時々鑑賞している”の合計比率
- “たまに鑑賞している”と“ほとんど鑑賞しない”の合計比率

指標

外国籍市民と交流している人の割合

(1) 指標の説明

外国籍市民と交流する人達が増えることにより、日常生活の中で様々な不安やトラブルが減少すると考えられます。そこで、外国籍市民と交流している人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q14 あなたは日頃、松戸市に在住したり、滞在したりしている外国の方達と親しく接することがどのくらいありますか。(1つに○)

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 1 大変よくある | 3 ときどきある | 5 ほとんどない |
| 2 しばしばある | 4 あまりない  |          |

(3) 指標の現状

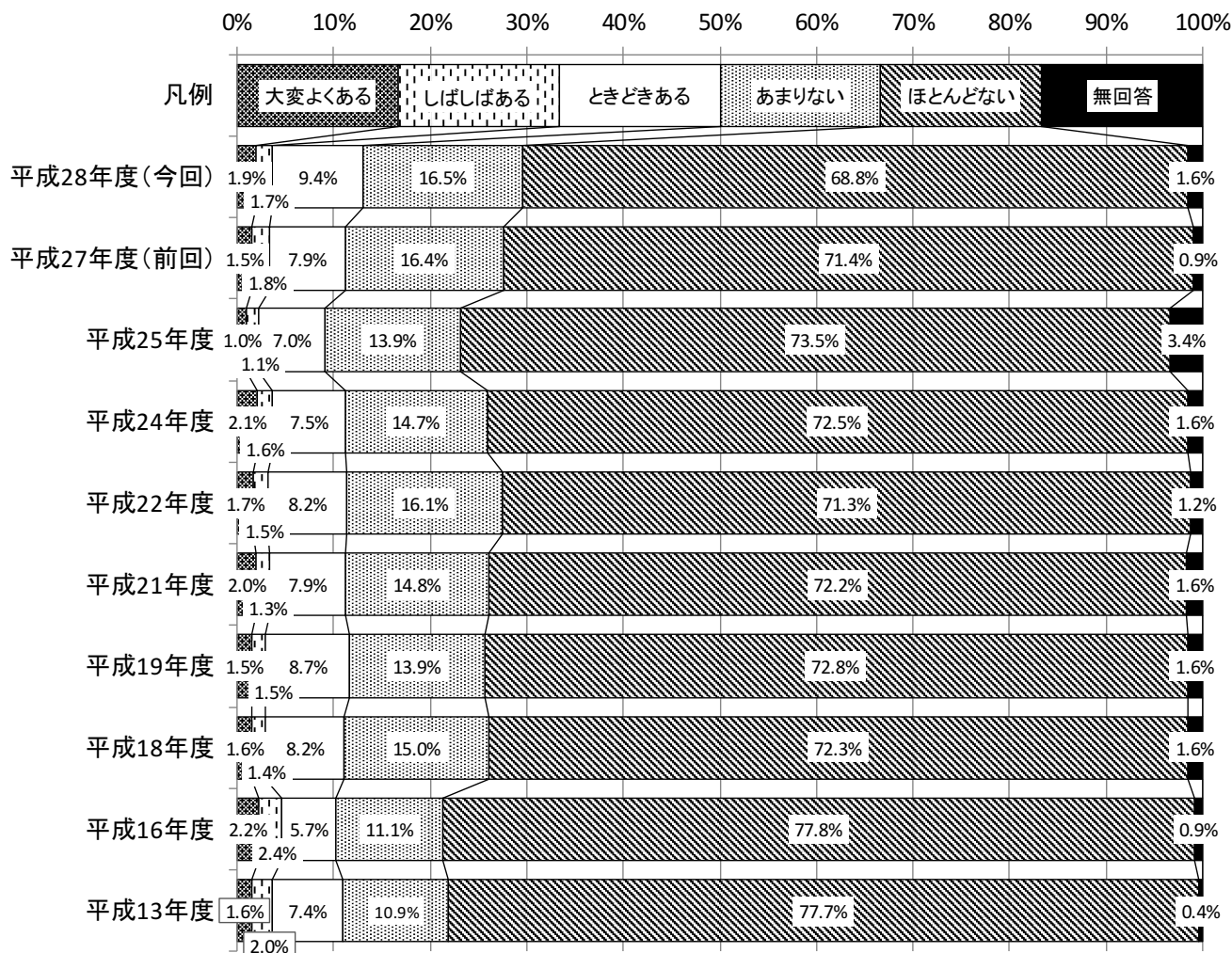
	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
大変よくある	1.6%	2.2%	1.6%	1.5%	2.0%	1.7%	2.1%	1.0%	1.5%	1.9%
しばしばある	2.0%	2.4%	1.4%	1.5%	1.3%	1.5%	1.6%	1.1%	1.8%	1.7%
計	3.6%	4.6%	2.9%	3.0%	3.3%	3.2%	3.7%	2.1%	3.3%	3.6%

#### (4) 指標の分析

☆外国籍市民との交流機会があるという回答は、前回調査に比べ増加しています。

外国籍市民との交流について“大変よくある”(1.9%)、“しばしばある”(1.7%)という頻繁に交流を持っている人は3.6%で、前回調査より0.3ポイント増加しています。

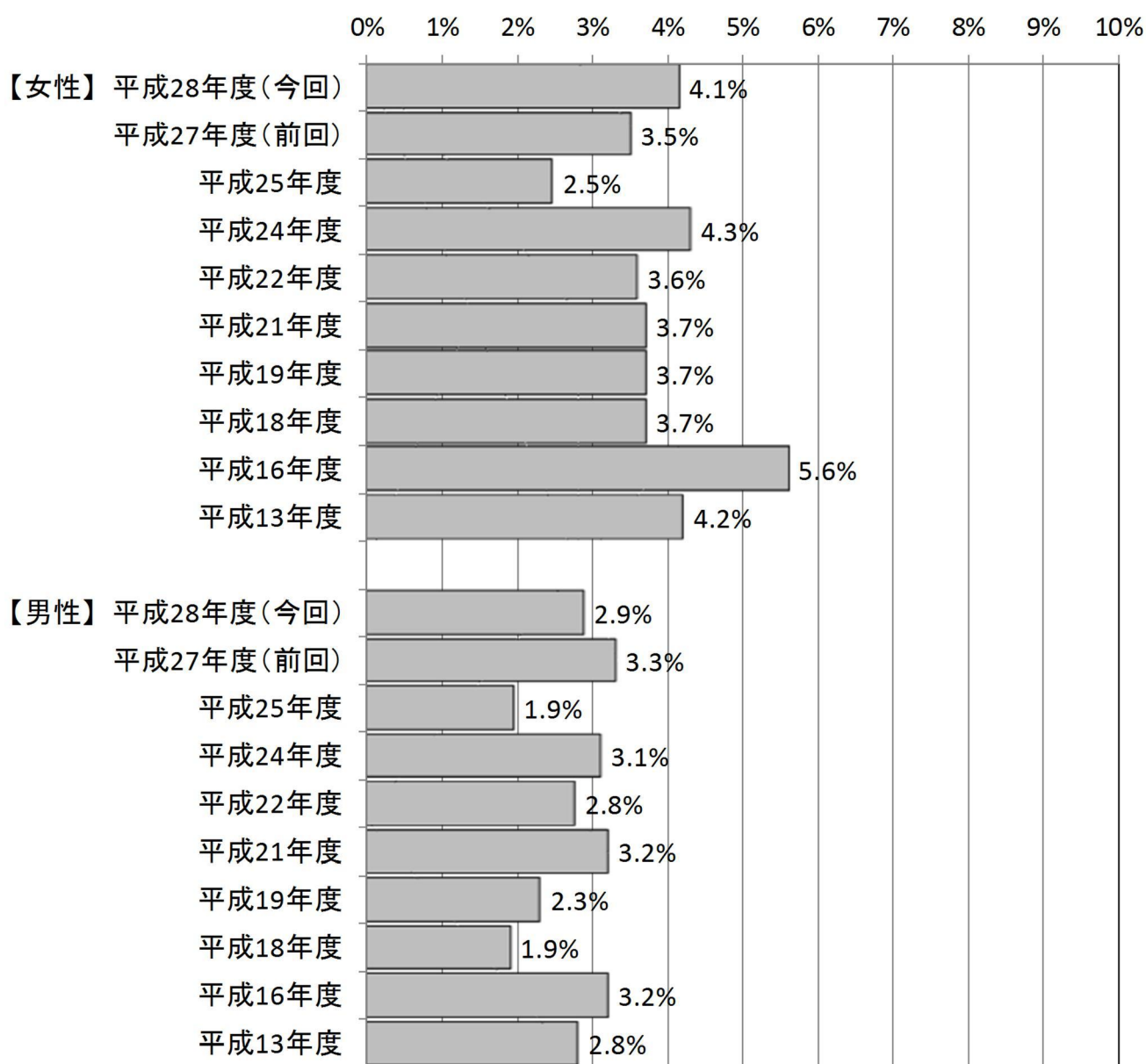
逆に交流を持たない人は“ほとんどない”(68.8%)と“あまりない”(16.5%)をあわせると、85.3%となっています。外国籍市民との交流機会がない人が大半ですが、前回調査より2.5ポイント減少しています。



性別でみると、“女性”4.1%、“男性”2.9%であり、前回調査と同様に、外国籍市民との交流は“女性”の方が高くなっています。

【外国籍市民との交流×性別】

〔“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率〕



年齢別にみると、外国籍市民との交流があるという人の割合は“40～49歳”が6.3%と最も高く、前回調査から2.6ポイント増加しています。次いで、“30～39歳”の4.4%であり、前回調査から0.9ポイント増加しています。

【外国籍市民との交流×年齢】

〔“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率〕

